

## 平時から災害時まで切れ目のない 廃棄物処理システムに留意した検討の進め方（案）

### 1. 基本的考え方

- 災害対応力の強化は、平時における廃棄物処理システム全体の強靱化の上になり立つものであり、平時の取組と有機的に連携し、推進していくことが不可欠。
- このため、災害対応力の強化に向けた検討を効果的に行うにも、平時の取組も併せた廃棄物処理システム全体の強靱化を意識した検討が必要。

### 2. 具体的留意事項

- ・ 平時からの廃棄物処理システム全体の強靱化と災害対応力の強化に向け、技術 WG・要処理量 WG による施設整備（ハード）の検討と、地域間協調 WG・人材育成 WG による自治体等の各主体における組織・人材の対応力向上（ソフト）の検討により、それぞれの観点から災害対応力を強化する方策を提示したい。
- ・ 施設整備については、例えば防災拠点の広域的整備や広域単位での受入量調整システムなど、中長期的にどのような施設整備を目指していくかという検討も併せて行っていくことが必要。
- ・ さらには、地域間の連携の強化・促進のため、連携メカニズムの制度化・システム化が必要。
- ・ また、市町村の人員が今後も不足すると見込まれる中、地域の災害対応力を強化するには、自治体間連携や人材育成等について、政令市や中核市が周囲を巻き込み、かつ都道府県がサポートするという重層的な体制を平時から構築しておくことが必要であり、その役割を平時の廃棄物処理計画に位置づけ、その体制整備の進捗管理を行っていくことが重要。
- ・ さらに、これらの取組を国としても適切に支援するためは、D.Waste-Net の活用や地方環境事務所の体制強化、国環研や民間事業者との連携の強化も重要。また、通常規模の災害廃棄物対応を通じた学習を行っていくことも重要。
- ・ このように、廃棄物処理システム全体の強靱化に向けた全体像を併せて検討し明確にしていきながら、災害対応力の強化としての技術・人材育成等各 WG の成果を全体像の中に位置づけていくことが重要。

### 3. 今後の検討の進め方

- 廃棄物処理システム全般の強靱化に向けた全体像について、年度末に災害対応力の強化の観点から提言をとりまとめることを想定し、本検討会において検討を行うこととしたい。
- また、各 WG において具体的な災害対応力の強化を検討するときに、全体像についても十分留意した検討を行い、適宜、本検討会に対して提言を行っていただきたい。